

第 51 回日本胆道閉鎖症研究会 会長挨拶

奥山 宏臣

(大阪大学大学院医学系研究科 小児成育外科学 教授)



テーマ:「胆道閉鎖症と移行期医療」

この度は歴史と伝統ある日本胆道閉鎖症研究会の第51回会長を務めさせていただきありがとうございます。胆道閉鎖症は小児外科の中でもとりわけ重要な疾患で、診療や研究の領域で、我が国が果たしてきた役割はとて大きなものがあります。大阪大学関連では、第3回(岡本英三会長 1976年)、第23回(岡田 正会長、1996年)、第39回(福澤正洋会長、2012年)以来、12年ぶりの4回目となります。

昨年の節目となる第 50 回研究会(山高篤行会長)では主題として「これからの 50 年に向けて」が取り上げられました。これを受けて、今回のテーマは「胆道閉鎖症と移行期医療」としました。

近年、長期生存例が増えるにつれて、成人期以降にも多くの問題が生じることが明らかになってきました。改めて胆道閉鎖症という疾患の難しさを感じています。そこで、成人期以降において、どのような体制で、どのような点に注意してフォローし、どのようなタイミングで治療していけば良いかについて演題を募集致します。またこれに限らず、広く基礎・臨床研究のご応募も歓迎いたします。これからの 50 年に向けて、皆様とともに良いスタートを切りたいと思います。

研究会は2024年11月30日、大阪大学吹田キャンパスの銀杏会館で開催いたします。秋の深まった大阪に多くの皆様をお迎えし、親交を暖め、意見交換できる実りある研究会にしたいと思います。ご協力・ご支援のほどどうぞよろしくお願い致します。

事務局:

大阪大学小児成育外科学

上野豪久 ueno@ped Surg.med.osaka-u.ac.jp

565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

TEL: 06-6879-3751

FAX: 06-6879-3759